

2021 年度 須坂市蔵の町並みキャンパス事業 実施成果

名称

蔵の町並み散策フィールドワーク

開催日

2021 年 7 月 10 日（土）

開催場所

クラシック美術館、旧小田切家住宅、ふれあい館まゆぐら

参加者

清泉女学院大学人間学部文化学科（授業名「文化資源論」）学生 31 名、教員 1 名

実施内容と成果

三密を避けるために、三つのグループに分かれ、須坂市役所の村石様、丸山様、小西様にご案内いただき、クラシック美術館、旧小田切家住宅、ふれあい館まゆぐらを訪れた。各施設では、建物の歴史や特徴、保存するうえで大事にされていることなどについてお話をおうかがいした。学生たちはこの散策フィールドワークを経験することにより、自分たちの馴染みのある町にどのような文化資源があるのか、文化資源を再生、保存、活用するために大事なことは何か等に関して、より深く理解することができた。

この散策フィールドワークは、清泉女学院大学人間学部文化学科開講科目「文化資源論」の学外授業として実施させていただいた。文化資源とは、文化を資源（貴重な文化資産）として社会的に再創造、運用していこうとする文化の新しいとらえ方である。文化資源とは、ある時代ある地域の文化や社会を知るための貴重な手がかりとなるもの、もしくはその総称のことをいう。文化資源をめぐる実情としては、文化資源を生かしたまちづくりや地域創生事業が各地で盛んに行われるようになってきた。都市計画、観光、産業、教育、福祉、アート、スポーツなどの諸分野と連動するなかで多様な文化資源が活用され、その価値が見直されている。そこには、これまで生活に使われてきたものだけでなく、街の景観や伝統的な芸能・祭礼など、有形無形のものが含まれる。一方、まだ多くのモノは死蔵され、消費され、活用されないまま忘れられている。埋もれた膨大なモノの蓄積を、現在および将来の社会で活用できるように再生・再創造し、新たな文化が生まれる土壌としてそれらを資源化し、活用可能にすることは大きな課題となっている（参考 文化資源学会公式ホームページ）。